

人権だより

No.9 発行日 R2.1.17



今月の人権標語

未来には いじめと差別 渡さない

AI テクノロジーから見つめる現代社会

池田 誠

人権とはHuman Rights と英訳されます。権利は一つではないので、Rights と複数形になっているわけです。言うまでもなく、人間が有する権利であるため、Human という形容詞になっているわけです。しかし近年、この人間ための権利が奪われかねない、大きな変革をもたらされようとしています。

GAF(A: Google, Amazon, Facebook, and Apple の頭文字)を筆頭とする IT 企業が、市場の大部分を占め、これらの企業の台頭に比例して、AI 技術の開発も進行中。“OK, Google.”、“Hey, Siri.”と機械に向かって話しかける時代が到来すると、誰が予想していたでしょうか。皆さんが日々使っていくと、それらの AI はユーザーに最適化していきます。いわば、ある種の人格に近い個性を持つと言ってもいいでしょう。

AI は将来的に、かなり多くの間人労働に取って代わると予想されています。各所から「AI によって将来なくなる職業」などが発表され、センセーショナルなイメージを与えました。実際に、ミスなくビッグデータと照らし合わせた思考が可能な(データベースにミスやバイアスがないという前提ですが)AI は、ある種人間よりも優秀なジャッジを下すことができると言えるかもしれません。しかし、もしAI が裁判官を務めたり、手術をしたりするようになったらどうでしょう。AI の判断に基づいて人が裁かれ、命を預けることになる未来に、あなたはどのような考えを抱きますか。皮肉なことに、人間が作り出した AI に、人間がジャッジされてしまうということがあり得るわけです。

また、ビッグデータの収集は、個人の過剰な管理に繋がってしまう可能性があります。中国ではかなり進んでいる、顔認証。日本のように、電車に乗る際に IC カードは必要ありません。改札に設置してあるカメラが、個人を特定します。便利に思いますが、それが可能であるということは、個人を管理しているデータベースが存在し、顔の 3D データとともに多くの個人情報収集されているということです。個人情報の過度な収集は、人間の尊厳を冒す可能性さえあります。キャッシュレス社会は非常に便利ですが、個人の購買活動のデータが収集され、誰がどこで何をいつ買ったかが明白になるという側面も併せ持ちます。テクノロジーの進歩と共に明らかになる、AI と人権問題。まだまだ認知されていないかもしれませんが、現代社会においては非常にデリケートな問題となりそうです。

☆ みんなの声 ~前回の人権だよりを読んで~ ☆

<生徒からの声>

- 最近、一人一人の個性を大切にしていこうという考えが広がっているので、とても良いことだと思います。自分と違った意見の人と話すことは勉強になります。
- 自分以外の人をを理解するのは難しいことかもしれませんが、これから生きていくために、必要なことだと思います。人と人の理解を大切に生きていきたいと改めて思いました。
- よく知りもせず遠ざけたり悪く言ったりすることは、相手が悲しい思いをするだけでなく、自分の世界を広げるチャンスを棒に振っているのと同じだと思います。
- 勝手な偏見を持ち、理解しようとせず、最初から全否定するのは間違いだと強く感じました。私も無意識にしているのではないかと思います。共感しあっていきたいです。
- 私の周りには、好きなものは違っていても、夢中になれる気持ちを共感しあえる友達がたくさんいるので、自分の好きなものを話して良かったなと思っています。

<保護者からの声>

- 「ヲタク」というのを「気持ち悪い」と一方的に否定するのではなく、「一つのことに夢中になれる人」というように考え、受け入れることができる世の中になればいいと思います。
- ヲタクになるくらい好きなことがあるのはうらやましいです。好きなことがあれば辛くても乗り越えられることもありますね。

1月25日(土)午後1時半より、御荘文化センターで「人権ふーらむ」が開催されます。

解放未来塾による人権劇『星~ひとつの夜空を見上げて~』も上演されます。みなさんふるって、ご参観ください。

きりとり

【保護者用】

今月の人権だよりを読んでの感想をお願いします。 ※締切り 1月24日(金)

()年 保護者

きりとり

【生徒用】

今月の人権だよりを読んでの感想をお願いします。 ※締切り 1月24日(金)

()年 ()組